

ベ ス ト ピ ア Bestopia

小 原 靖 夫

ベストピアは小原靖夫の
個人誌です。

平成二十三年三月
第二八九号

東北関東大地震

(1) リビアへの旅ー実現せず

今、話題の中心にあるリビア（正式名は大リビア・アラブ社会主義人民ジャマヒリーア国）へ、2月26日から3月11日約2週間の旅を計画していました。これは5年以來2度の挑戦をするも、その度毎に仕事上の突発的な事案が起きキャンセルをかさねて、今度が3度目の正直、最後の挑戦を試みていました。最後の挑戦というのは体力のいる旅で、70歳を過ぎると移動や食事に自信が持てない旅と感じているからです。ところが2月10日になって業務上の仕事が精神的に極限状況に達し、思考が混乱し先の見通しを立てる事が出来ず、旅行にでることに重荷を感じ、自主的にキャンセルしました。しかし、2月14日朝、極点直下事案が好転したものですから旅行の復活を申し出、再び準備に入り、携帯する食料等を買って求めて、ルンルンの気持ちになりました。事変が拡大し旅行会社から中止の連絡が入ったのが2月18日、パスポートには2ページにわたりリビアの査証の刻印が押されています。かくて、私にとって、リビアは幻の国になってしまいました。

(2) なぜ！リビアなのか？

リビアへの思いは5年間暖めてきました。その訳は旅への好奇心からです。

① 盛んに映像に映し出されるようになりましたが、あの紺碧の海と空の色、霞のない青に吸い込まれて行くような白壁の光と影のコントラストは私の感性には魅惑的

でした。紺碧の空に昇華していく浮遊感は少々のリスクに負けることはありませんでした。

② 次は砂漠です。モロッコで見たあの紅の砂漠の美しい光景の虜になっており、もっとスケールの大きな砂漠の真ん中で煌めく星々と話がしてみたい。

③ 更に、極めつきは「砂絵」です。砂漠の岩に遠くなるような古から雨露をしのいで今もはっきりと見える生活感あふれる岩絵をどうして古代の人々に話してみたい。

BC1万2000年からBC100年にいたる人類の生活感の年代が比較できる。このことについては私には仮説がありそれを感性で納得できるのではないかという期待感がありました（理性の学問ではなく、感性からわき出る好奇心を満たすこと）。

④ 歴史にも大いに興味をもっていました。首都トリポリの東約123kmの処に、レプティス・マグナという都市があります。この土地から始めてローマ皇帝になった、セプティミウス・セウエルス（在位193-211）が、故郷の町をローマを凌ぐ華麗な都市にしようと試み、贅を尽くした精緻な彫刻群、劇場、凱旋門などの遺跡が海岸の砂の中から発掘されて遺っている（1982年に世界遺産となる）。

⑤ トリポリの西67kmには、サブラータという町があります。素晴らしいモザイクタイルが美しい海に向かった浴場や108本のコリント様式の柱で支えられた3階建ての楽屋付きの大規模な円形劇場が紺碧の地中海をバックに建っています。

④⑤は、「夏草や兵どもの夢の跡」のつぶやきがびったりするかのよう、306年、

310年、365年の地震で甚大なダメージを受け、更に民族紛争、7世紀にはイスラムアラブの侵入によって街は無人生化し遺棄されたと言われています。

⑥ レプティス・マグナは1921年、サブラータは1927年に発掘されるまでは遺跡は砂に埋もれていたため保存状態が良く、破壊を間逃れ、オリジナルの形で復元できたということです。

ここで、私の疑問が生じます。何故、砂に埋もれたのか？どんな自然現象が生じたのか？それは何時起きたのか？紀元前の話ではなく、中世に起きていること、判らないはずはない（読者の方でお知りの方がいらしやいましたら教えてください）。

以上がともかく現地についてみたいとの好奇心から旅を計画した訳です。

（3）足止めは救い。助け。

お恵み。護り。

かねてから私は自分の人生が危機一髪のところでは助けられ守られているとしばしば記しているところですが、今回も三度、四度のリビア計画がその都度中止になるその意味を結果的に考えると私は守られ、必要なときに、必要な助けと恵みが与えられていることに感謝しています。この続きが東北関東大震災にも続くのです。

（4）東北関東大震災

誠に痛ましい大災害が起きてしまいました。被災者の皆さま方には何と申し上げていい言葉がありません。少しでも早く終息することをお祈りするばかりです。

私事になりますが、リビアの旅の帰国予定日が3月11日成田着17時20分でした。まさに巨大地震の直後の到着でした。未確認ですがこの便は成田には到着出来なかったのではないかと、関西空港か？到着しても長い時間の足止めになっていたでしょう。

（5）地震発生時

私は横浜、妻は東京有楽町に

3月11日14時46分、私は横浜の磯子駅前にはいました。大恩人の中村夫人と共に小さなビルの1階で話し合いをしていました。

揺れが徐々にやってきたので震源は遠いと判断でき慌てることは無かったのですが、揺れる時間が長ったのでだんだんと不安が増して立ち上がり自動ドアの施錠を解除してもらい避難通路の確保をしました。

JRが全面ストップしましたので急遽バスに乗り横浜駅に向かいました。道はだんだんと混み始めバスは満員となり各停留所では積みのこし、すし詰めバス内は空気が息苦しくなり、ついにバスが動かなくなりました。幸いに早い時間にバスに乗ったので約1時間で横浜駅の手前数kmまで進んでいました。途中、地割れした歩道、ひびのはいったビルを車窓に見ながら被害の小さくないことが想像され、震源地の事が気になり始めてきました。

横浜駅の混雑が明確に予想できてきましたので私は横浜駅に着く前にバスを降り歩き始めました。タクシーをキャッチしようと考えていました。長時間の戦いになることも感じていたのでまずトイレが頭に浮かびました。冷たい雨が降り出し寒さも増してきましたが、少し歩いたところに公衆トイレ発見！5-6人位の短い行列、ラッキー！私は中村夫人に「ゆっくりでいいです。タクシーをつかまえますから」と言って自分の用を速やかに終わらせ、ぎっしり詰まって動きのにぶい車の行列を睨みました。

二つのラインが合流する場であったのでチャンスは二倍あると考えて、何としても捕まえるぞ！車が多すぎてどれがタクシーか判別するのも難しい状況です。10台位先に赤い「空車」と信じた車を発見、ゆっくりしか進まない車の間をくぐり抜けて、小走りに接近、「空車」確認、「ヤッター」

と叫ぶ。

運転手さんの話では、動かないことにしびれをきたした乗客が少し前で降りたということ。私達には願ってもないプレゼントです。

トイレと言えはその瞬間に前に現れ、タクシーといえは時を待たずに空車が現れる。神のご加護としか考えられないことの連続がまだ続きます。

(6) のろのろタクシーに感謝

高島町から横浜駅までは普通は5分位のところ1時間かけて抜け、第一目的地には更に1時間を要しましたが無事に到着、中村夫人のご自宅で休むようにとのお勧めを辞退して「新幹線が必ず復旧する」と信じて新横浜まで更に1時間、午後7時過ぎに到着しました。

タクシーの中ではラジオが聞け、刻々と伝えられる悲惨な報道に心を痛めるばかりで時間の経過を気にすることが申し訳ないという思いが湧いてきました。のろのろ運転でも目的地まで運んでくれて感謝して下車しました。新幹線の情報が不確かでしたので万一のために宿を確保しようとして駅周辺のホテルを3ヶ所まわりましたが、いずれも外国人の宿泊客でロビーが大混雑、タクシー乗り場は気が遠くなるほどの長蛇の列、こうなれば、「腹を据えて、腹を満たす」戦略に切り替え、マクドナルドの肩をすれ合う列に並ぶ。てきぱきと対応する若いスタッフの姿勢が待ち時間のストレスを最小限にして明るく対応している老若男女が席を譲り合って静かに大きなハンバーガーをほおぼる。外国人の客もどんどん増えていく。空腹を満たした私は、もう迷うことなく新幹線のりばに足をむける。

地震発生間もなく、宝塚の息子からの頻繁な連絡によってかなりの情報を持っていたので、新幹線が動き始めることを感じて

いました。駅員の話は人によって違う、動くのは「のぞみ号」だけとか、下りはまだ動いていない等情報が一本化されていない。

現場というのは大概こんなものである。咎めたり言い争ったりする事態ではない、自分の足と目で確かめるしかない。切符を買うにも一人一人に説明しているので前に進まない。入場整理券をもらってホームにあがる。間違えて東京行きの番線に上がってしまった。すると向のホームの電光掲示板「こだま」の接近矢印が点滅している、場内放送は「のぞみ」のことばかり声高に案内が続く中で何かの間違いかと思いつつも駆け足でホームを移動、グリーン車の乗り場で到着を待つ。数回の訂正放送の後に「こだま665号」が約5時間遅れで入ってきました。定時では東京発14時56分、新横浜15時16分発となる私にはおなじみの列車だったのです。新横浜から小田原は1駅で17分ですが迷わずにグリーン車に乗る、これは経験からくる直感、地震後はじめての「こだま」である。満員かつ徐行運転で何時間かかるか判らない。そのとおりとなり時速30kmの区間もあり約1時間ゆったりと座り読み終わらせたい『自壊する帝国』の最後のところに集中することができたのです。小田原に着いたのは21時半でした。小田原でも近くの高校が臨時宿泊場として提供されていました。こんなにスムーズに帰宅できたのは幸運の連鎖、必要なときに必要なことが備えられていたのです。小田原の街は不気味な静けさであった。同じ日本であることが信じられないほどの。

(7) 東京の妻は

入院している叔母を見舞いに行き銀座三越付近で地震を感じ立ってられないほど揺れを体験し怖かったと言います。三越の館内放送は納得性がありお客さんは静かに揺れのおさまるのを待ったとのこと。

東京に詳しい従姉と一緒にあったので心強く冷静な判断で、三越で必要なことを全て済ませ迷うことなく歩き始め、新聞、TVの報道を身をもって体験すること4時間半目的地に到着しました。途中渋谷で食事をする予定であったが食材がなくなって閉店しており、水を飲み、歩く群衆の波に飲み込まれそうになったり、前からやってくる群衆にぶつかったり人口の多い東京ならではの体験をして翌日戻ってきました。

学んだことは、まず、水の大切さ、日頃の歩く習慣（1時間で自分がどれだけ歩けるかを知っていること）人口の多い東京の怖さ、日本人を褒め称える外国人の直接の言葉、それは、後日報道されたことですが、多国語を理解する従姉が道々聞いたことは、日本人のジェントルマン的な行動、倫理観の高さ、安全が維持される秩序——国債の下落に少しは貢献するかも知れない外国人の感想です。

日経の記事を引用します。

米格付け会社ムーディーズ・インベスターズ・サービスは14日夕、東日本巨大地震について「日本の財政危機が切迫したものになることはない」との見解を発表した。

「地震で財政赤字が拡大しても、日本政府は国内市場で引き続き低コストで資金調達が可能」と説明している。

一方で「しかし市場が財政の健全性に対する信認を失い、日本国債にリスクプレミアムを要求するようになれば、いずれかの時点で転換点が訪れる可能性がある。各政党が危機を契機として長期的な財政上の課題にも取り組む姿勢を強めない限り、今回の地震はこの転換点の到来を若干早めた可能性がある」との懸念も示した。

〔日経QUICKニュース〕

（8）災害時のマニュアル

小田原は地震への警戒の高い街です。私は大きな地震の度に事務所を引っ越しして、その度対策を考え10年前には災害時のマニュアルを作ったことがあります。その一つを今回実行しました。それは、情報の伝達機能に関することです。災害現場には正確な情報がなかなか伝わらない（携帯電話、メールの機能が働かない）圏内情報が取りにくくなるので、情報を一旦圏外に出しておく、圏外に情報を受けてくれ整理して発信してくれる信頼の出来る人を作っておくこと。

当時は息子が福岡にいましたのでその機能を公表していました。「そんなことまで——」と大袈裟を笑われましたが、大企業では各地に支店がありますから当たり前になっていることでした。今回は自ら実行しました。私は横浜、妻は東京、二人の安否確認は互いにできませんでした。地震直後に息子にメールし情報の発信を依頼、20分後には安否確認ができました。私の携帯はシニア向けのもので性能がいまいちであることは日頃から判っていましたがメールはそこそこに機能して情報収集には役立ちました。クイック・クイックも原則です。情報が集中する前にすぐに必要な発信をすることです。今回、正確な新幹線情報を提供してくれたのは宝塚の息子夫婦でした。

（9）災害発生から4日

目を覆いたくなるような、信じたくないような事実が明らかになっています。救出と救援の速やかなること。余震の終息を祈ります。

予測と覚悟を超えた事態は他人事ではなく、明日は我が身かも知れません。備えと新たな覚悟、そしてネットワークの確認が必要です。それにしても東京電力の対応は

混乱をますのみ、リーダー不在は政治の世界だけではないようです。

「やるべき事をやるべき時に断乎として実行する。やってはならないことは絶対にやらない。」

利害を超えた理念と心情のあるリーダーは必ず存在すると信じます。今回は縦のリーダーシップ、横のリーダーシップの双方が効果的に働いていません。被災地を停電させるのは心情なき証拠のなにもものでもありません。限界状況では瞬時の決定はマニュアルではなく、日頃のリーダーの生き方そのもの、感性的なものが現れます。

(10) 何ができるか

計画停電の報道で、我が南足柄市もやつと TV に出てくるようになり、それを見た福岡、大阪の友人から「困っていること、不足している物等あったら送ります」との応援メッセージに感謝しています。

私は山奥に住んでいるので保存食を常備しています。一定期間の準備は終わっていますので、今は「動かない」ことと節電を徹底しています。東京への出張はしばらく中止させてもらいます。動くと言ソリンがいます。交通混雑にも加担します。積極的には何も出来ない年齢ですから、迷惑をかけることを最小にすることに努力しています。年齢にふさわしい何かを工夫しています。宝塚の息子たちは被災者の友人と連絡をとりあい、必要な援助活動をしているようです。遠隔地の人とのネットワークの大切さを痛感します。

(11) 怖い地震の連鎖

3月15日22時30分、静岡東部での地震は我が家には近いところ、一瞬、東海大地震の到来かと思いました。震源が南下しているので油断できません。東京に被害が及ばないことを願います。

今回も揺れが一旦収まったところで宝塚に一報を入れました。ニュースで東海地震との関連が無いと聞き休みました。明日は我が身です。

